



伊藤 房代 議員



道路の安全対策について

問

国道沿いにあるタイヤ館旭から有限会社あかざ北側交差点までの間、急に道幅が狭くなる箇所や段差があり、歩行者や自転車が大変危険な状態。安心して通行できるよう対策できないか。

答

現在、幅員が狭い箇所や段差の解消を図るため、道路の設計などを行っており、安心して通行できるよう整備を進めたい。

エアコンの設置について

問

熱中症対策として集会所等へのエアコン購入費に補助はあるのか。

答

天井に埋め込むビルドイン型であれば地区集会所施設修繕事業として補助金を充てることができる。

旭市の特産品について

問

市の特産品にはどのようなものがあるのか。また、その特産品を全国に広げる取り組みについて伺う。

答

特産品開発事業は、平成24年度から令和6年度までにサブレやもつカレーなど、43件の商品が開発されている。このような商品は道の駅で販売されているほか、旭市推奨品認定された品も含めて物産協会のホームページなどで公表している。また、都市部等で開催される物産展で商品のPRをしている。

問

市では商品の開発にこれまでどのような取り組みをしてきたのか。また、現在の取り組みの状況を伺う。

答

特産品開発事業は、年度当初に広報、ホームページ、LINE等で募集を行い、応募があった場合には、審査をして事業の決定を行っている。特産品として認定された商品は、他の同種の商品との差別化が図られ、プレミアム感が創出され、高い付加価値が生み出される。魅力的な特産品が増えることで、旭市の知名度向上や地域経済の活性化が図られるため、引き続き開発事業の周知に注力していく。

その他の質問事項

○高齢ドライバーの安全対策について

○冷水機の設置について

住みよい住環境の確保について

問

飼い主のいない猫に対し、善意で不妊手術を行っている市民が多数いるが、これまでの経緯を踏まえ、公益財団法人どうぶつ基金の行政枠への登録をすることはできないのか。

答

飼い主のいない猫を保護し、手術を行い、元の場所へ戻す、いわゆるTNR活動には不妊手術を適切に行う仕組みを構築する必要がある。現在、ボランティアグループや個人に対する支援方法について、関係機関から助言をもらい検討している。どうぶつ基金の行政枠への登録について、申請方法やチケットの配布方法等も含め、利用しやすい制度となるよう、関係機関の理解をもらいながら、現在、登録に向けた準備、検討を行っている。

公共交通網の整備について

問

デマンド交通の運賃を下げることができないのか。運

答

賃が下がれば利用が増え、外出機会が増える。その結果、認知症の予防、健康寿命が延びることが期待できる。医療費の削減などに寄与するのであれば、市がいくらかの負担をすべきである。

問

デマンド交通の利用範囲について、匝瑳市に守医院とひがた歯科医院があり、受診するためにデマンド交通を利用した場合、干潟駅までしか行かない。現在のデマンド交通の利用範囲は市内限定だが、市内から通院・受診をする人が多い市境にある医院に一部範囲を拡大することはできないか伺う。

答

以前から医療施設への利用に関する要望が多かったことを踏まえ、令和6年度から車両を1台増車し、区域をまたいで医療施設を利用できるようにした。今後、運行事業者とも協議しながら、市境にある医療施設についても対象となるよう検討する。

その他の質問事項

○成田空港第3滑走路の延伸による本市への影響について